



(財)岩手県南技術研究センター

South Iwate Research Center of Technology

創刊号

平成8年3月1日

(財)岩手県南技術研究センター

一関市萩荘字高梨南方114-1

県南技研だより

TEL 0191(24)4688 FAX 0191(24)4689

岩手県南技術研究センターの開所

平成7年4月に竣工いたしました岩手県南技術研究センターの開所式が、平成7年6月1日(木)午後1時半から当センターで行なわれました。

開所式には運営主体となる第3セクターの(財)岩手県南技術研究センター理事長佐々木一朗をはじめ、岩手県知事代理出納長千葉浩一様、一関工業高等専門学校校長池田俊夫様、来賓として、文部省高等教育局長代理鶴岡工業高等専門学校校長阿部光雄様、東北インテリジェントコスモス構想推進協議会会長石田名香雄様、岩手県議会議長代理 副議長及川幸郎様、両磐インダストリアルプラザ会長須田利治様らを迎え、関係者ら115名が出席し、開所式を挙行了しました。



開所式 式 辞

財団法人岩手県南技術研究センター
理事長 佐々木 一 朗

岩手県南技術研究センターの開所式に当たり、ごあいさつを申し上げます。

本日は皆様方には、たいへんご多用のところをご臨席を賜りまして、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

我が国の社会経済情勢は、景気の低迷、あるいは円高、産業の空洞化の進行など、厳しい状況にありますだけに、創造性が発揮され、あるいは技術革新等に対応できる地域産業の育成、振興のできる環境づくりが求められているところであり、それらが活力ある地域社会の形成につながるものと考えているところでございます。

当一関市を中心とする地域は、関係各位のご努力により、先端技術産業や、関連企業の集積が進み、岩手県におきましても重要な工業生産地帯を形成してきているところでございます。

こういう中にありまして、特に両磐インダストリアルプラザと一関工業高等専門学校が中心となる、地域企業の交流活動や地域共同技術相談室の開設など、産学連

携による活動の活発な展開が大きな下支えになってきたものと思うところでございます。

この度、岩手県のご高配によりまして、岩手県南技術研究センターが整備されましたことは、企業活動に一段の弾みが付くことと期待するものであります。

当研究センターは、新素材応用研究、環境機能応用研究、そして技術情報教育研究の三部門を柱として、最新鋭の機械設備を整えたところであります。

また、この施設を運営する組織といたしまして、財団法人岩手県南技術研究センターが両磐地域の産、学、官の共同により、平成7年4月設立を見、私が理事長として運営の職責を負うこととなりました。

今後、一関高専さんの全面的なご協力、ご支援をいただきながら、地域産業の振興、ひいては岩手県全体の発展のため貢献できるように運営して参りたいと念じているところでございます。

結びに、岩手県南技術研究センター実現のために寄せられました岩手県をはじめ、両磐各市町村、産業界の関係各位のご高配、ご協力に対し、重ねて御礼を申し上げますとともに、本センターの運営につきましても、ご指導、ご協力を賜りますようお願いを申し上げます、ごあいさつといたします。

○挨拶をされた方々

- ・岩手県知事(代理 岩手県出納長 千葉浩一)
- ・一関工業高等専門学校長 池田俊夫

○祝辞をいただいた方々

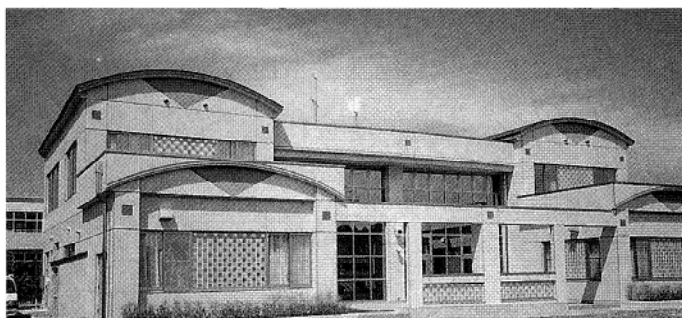
- ・文部省高等教育局長
(代理：鶴岡工業高等専門学校長 阿部光雄)
- ・岩手県議会議長(代理：副議長 及川幸郎)
- ・両磐インダストリアルプラザ 会長 須田利治

開所記念講演

式典に引き続き、一関工業高等専門学校第一講義室に会場を移して、講師に東北インテリジェント・コスモス構想推進協議会石田名香雄会長(元東北大学学長)により「学と産を結ぶ英知」をテーマに1時間余にわたりご講演をいただきました。

研究センターの紹介

地方産業起こしの拠点に!!



岩手県南技術研究センターは、地元企業の研究力、技術力の向上を図り、地域産業を振興するため、岩手県と一関市が整備した施設です。センターの運営は、この施設が地域のニーズに的確に応え、効果的に活用されるよう両隣地域の市町村や地元企業などで設立した財団法人岩手県南技術研究センターが行います。

センターは、技術情報教育研究部門、新素材応用研究部門、環境機能応用研究部門の3部門を中心に、企業の要請に応え、地域に密着した研究を行うとともに、異業種間交流や人材育成を実施いたします。

センターの研究、研修等は、優れた技術力を有する一関工業高等専門学校のマンパワーが担ってまいります。

〔支援・相談事業に置ける特徴〕

地域産業の技術開発を支援するため、新素材応用、環境機能応用、科学技術情報等に係わる共同研究開発、受託研究開発事業、自主研究開発事業の実施

- ・メカトロニクス、ニューマテリアル、環境汚染(影響)に関する技術相談
- ・新素材応用研究、環境機能応用、情報処理機器の貸与(操作指導を含む)
- ・OA技術等に関する公開講座及び新素材応用・環境機能応用の技術セミナーの開催
- ・産学官による技術懇談会及び交流会の開催
- ・依頼試験・分析

〔具体的取り組み〕

取り組まれている 支援・相談事業分野	概要(具体的事業・制度名)	有・無償の区分	備考(利用条件等)
技術開発 (共同・受託研究)	地域産業の技術開発の支援のために、一関工業高等専門学校の協力を得ながら素材応用、環境機能応用、科学技術情報等の共同・受託研究の実施	☐ 有償	毎年度要項を添え募集
技術開発 (技術指導)	技術相談室を設け一関工業高等専門学校教官によるメカトロニクス、ニューマテリアル、環境汚染(影響)に関する総合的な技術相談に応じる。	☐ 無償	事前に電話による申込みが必要
技術開発 (試験設備貸与)	新素材応用、環境機能応用、情報処理関係の設備貸与 〔主な設備〕 新素材：結晶制御育成、アモルファス作成、スパッタリングの装置等 環境：蛍光X線分析、NMRの装置レーザー顕微鏡等 情報：リモートセンシング画像処理 マルチメディア製作装置、パーソナルコンピュータ	☐ 有償	文書(所定様式)による申込みが必要 貸与は、設備の操作指導を受けることを条件としています
技術開発 (依頼試験・分析)	依頼試験・分析は新素材応用、環境機能応用分野	☐ 有償	文書(所定様式)による申込みが必要
人材教育 (セミナー、公開講座)	人材育成を目的に、新素材応用、環境機能応用に関するセミナー 情報処理に関する公開講座	☐ 有償	募集は地元紙に掲載するとともに、企業へ直接案内

平成7年度事業報告 (平成7年6月～平成8年2月)

開所記念シンポジウム

(平成7年12月4日)

[テーマ 国内産業の行方と地方産業起こしを考える]



研究センターの開所を記念し、地域に根ざした内発型企業の育成や企業家精神の機運醸成を図るなど、地域活性化に求められる新たな発想と取り組みを深めるため「開所記念シンポジウム」が当研究センターを会場に100人余りの出席を得て開催されました。

開会の中で副理事長の池田俊夫一関高専校長から「地域に根ざした新しい産業の開発、人材の育成、企業の振興に貢献する施設を目指したい」とあいさつがありました。

基調講演

1. 東北通商産業局商工部長伊達宏和氏を講師に「創造的中小企業支援施策の現状と課題」と題し、東北地方の課題と対応について、情報や人的ネットワークの形式と情報発信、異なる文化や思想の接触による新しい発想の重要性について講演され、更には国の技術振興策について次の項目について述べられました。

主な事項 (特に地域に関係が深いもの)

- ・ 中小企業産学技術交流促進事業の創設
- ・ 技術開発に対する補助制度の拡充
- ・ 地域産学官共同研究の拡充
- ・ 独創的産業技術研究開発促進制度の創設

2. (株)日本オートメーション代表取締役坂本道雄氏を講師に「中小企業の地域産業興し」と題し、「中小企業の時代」を標榜する同社長が自ら提唱実践する「キュービック戦略」(注1)「いけす戦略」(注2)「異業種交流」について講演されました。

注1 売れる商品づくり(ニーズを先取りした商品開発)を可能にする方法

注2 大企業研究所、公的技術試験所等で開発されながら実際に使用されていない技術(いけす、の中の魚)を自社の商品づくりに利用させてもらう。

- この後に「国内産業の行方と地方産業起こしを考える」をテーマに講師と聴講者の間で意見交換を行って、将来に向けた地域の産業が歩むべき姿を模索し終了しました。

交流パーティー

記念シンポジウム終了後、会場を蔵元レストラン「せきのいち」に移し、講師を囲んで交流パーティーを催しました。



研究開発事業

共同研究テーマ	共同研究企業	研究者	研究部門
超急冷アモルファス合金の構造と磁氣的性質	川崎ダイス工業(株) (北上市)	比内正勝 向山宙	機械工学科 新素材応用研究室
プラスチックへの表面加工	株式会社 増幸 (一関市)	佐野茂 二階堂満	化学工学科 環境機能応用研究室

自主研究開発事業

研 究 組 織	研 究 題 目	研 究 期 間	研 究 室 部 門	学会等への発表等	
機械工学科 電気工学科	佐藤 清忠 平山 芳英	岩手県パイロットプロジェクトの 実施可能性に関する調査	平成7年5月～ 平成9年3月31日	リモートセンシング画 像解析室、技術情報室	日本リモートセンシング学会
機械工学科 制御情報工学科 機械工学科	比内 正勝 佐川 武俊 沼崎 敏男	防振フェライト鋼の強化機構及び 機械的性質	平成7年7月1日～ 平成9年3月31日	新素材応用研究室	平成9年度日本金属学会また は日本機械学会にて発表予定
機械工学科 〃 千住スプリングラー(株)	見 謙造 佐藤 昭規 菊池 壽	スパッタリングによる酸化物多層 被覆鋼材の耐蝕性	平成7年7月1日～ 平成9年3月31日	新素材応用研究室	日本金属学会 H8. 4 日本素材物性学会 H8. 6
機械工学科 〃 大平工業(株)	見 謙造 佐藤 昭規 菊池 博	SUS310S鋼溶接熱影響部の粒界 腐食の結晶方位依存性	平成7年7月1日～ 平成9年3月31日	新素材応用研究室	日本金属学会 H8. 4 日本素材物性学会 H8. 6
機械工学科 〃	佐藤 規昭 見 謙造	ステンレス鋼単結晶を用いた溶解 速度の表面方位依存度	平成7年7月1日～ 平成9年3月31日	新素材応用研究室	日本金属学会 H8. 4 日本素材物性学会 H8. 6
機械工学科 東北大学名誉教授 韓国 新星専門大学	佐々木世治 増田 英俊 高 興	金属の熱物性値の測定	平成7年10月1日～ 平成9年3月31日	新素材応用研究室	日本熱物性シンポジウム 日韓、熱工学シンポジウム
化学工学科 〃	佐野 茂 二階堂 満	微粒子の形状分離特性	平成7年7月1日～ 平成8年3月31日	環境機能応用研究室	計画中
化学工学科 〃 〃	佐野 茂 二階堂 満 長谷川淳一	構造材料としての石灰灰の利用法	平成7年7月1日～ 平成8年3月31日	環境機能応用研究室 新素材応用研究室	計画中
物質化学工学科 〃	佐藤きよ子 細川 静男	ヤナギ樹皮の含有成分について	平成7年7月28日～ 平成8年3月31日	環境機能応用研究室	
物質化学工学科 〃	佐藤きよ子 細川 静男	パブリカの含有成分について	平成7年10月1日～ 平成9年3月31日	環境機能応用研究室	

共同研究 (中間発表)

[超急冷アモルファス合金の構造と磁気的性質]

発表者 機械工学科 比内 正勝(新素材部門)

共同研究者 機械工学科 向山 宇

〃 企業 川崎ダイス工業(株)

- 通常合金は如何に速く冷却しても結晶質であるが、ある種の元素を添加して、作製条件を最適にするとアモルファス(非晶質)となる。そこでFe-Co系にBとSi元素の量を変化させて添加した合金の素材を外注した。これらの多数の合金をアモルファス化するために検討した条件は、①ノズルの形状、②ノズルと片ロールとのギャップ、③ロールの回転数、④溶解温度、⑤吹き出し圧力、⑥容器内のArガス圧力である。
- 作製した試料について磁気的性質の測定、X線回折法による構造決定、機械的硬さの測定を行った結果一定の評価が得られた。



人材育成事業

■公開講座

○テーマ UNIXの基本操作と画像処理技術(共催事業)

[開設の概要]

- ・ワークステーションによる大量データの高速処理、クライアント・サーバー処理形態、LANによるデータや周辺機器資産の共有は、情報技術として重要であり、これら技術の知識に慣れるための基本的な研修であります。
- ・開設の項目
UNIXとネットワーク環境、UNIXコマンドとCプログラム体験、画像処理体験とネットワーク利用
- ・講師 一関工業高等専門学校
佐藤 和久教官/佐々木 晋 五教官
平山 芳英教官/佐藤 清忠教官
- ・対象 技術系
- ・日程 8月26日(土)～8月27日(日)

○テーマ 顕微鏡利用技術入門(共催事業)

[開設の概要]

- ・光学顕微鏡から電子顕微鏡さらには分析顕微鏡を用い、自然の不思議な世界をのぞくとともに、利用技術の習得を目標にしたものです。
- ・開設の項目
顕微鏡の種類と構造、レーザー顕微鏡実技

- ・講師 一関工業高等専門学校
昆 謙 造教官／比 内 正 勝教官
佐 藤 昭 規教官
- ・対象 社会人
- ・日程 9月27日～9月29日

○テーマ 表計算EXCEL入門 (共催事業)

〔開設の概要〕

- ・事務伝票、家計簿、成績計算などある定まった形式の書類を作成するのに便利な事務用ソフトを用いどの程度のことのできるかを体験し、どうやれば使えるかを習得目標にしたものです。
- ・開設の項目 基本操作、データ入力・印刷、計算方法、表データのグラフ表示
- ・講師 一関工業高等専門学校
佐 藤 清 忠教官／佐 藤 きよ子教官
阿 部 林 治教官／平 山 芳 英教官
- ・対象 社会人
- ・日程 11月28日～12月1日

地域関連事業

■ 試験・分析依頼

次の内容の依頼を受け試験・分析をしました。

(平成8年1月末現在)

区 分	内 容	部 門
試験・分析	表面粗さ	環 境 部 門
試 験	クランプの引張強度	新素材部門
分 析	ダイヤモンド粉度	環 境 部 門
分 析	基板薄膜の定性・定量	環 境 部 門

■ 両磐地区産学官交流会の開催

岩手県高度技術振興協会、両磐インダストリアルプラザ、両磐地区広域商工業振興協議会、両磐地区広域市町村圏協議会、岩手県南技術研究センターが主催する両磐地区産学官交流会が、平成7年10月4日当研究センターで開催されました。

この交流会はテクノポリス地域の技術を波及促進するため、テクノポリス周辺地域において産学官交流会を開催し、地域企業と高等教育機関との人的交流を進めるための契機とし、もって地域企業の技術の高度化に資することを目的としております。

○講演

- 講演①「エネルギー／環境問題の動向と課題」
岩手県工業技術センター
所長 紺 谷 和 夫氏

- 講演②「超伝導エネルギー貯蔵装置とその要素技術について」

岩手大学工学部材料物性工学科
教授 能 登 宏 七氏

- 講演③「制振鋼板の加工時の変形挙動」

一関工業高等専門学校制御情報工学科
教授 佐 川 武 俊氏

企業事例発表

「消防緊急通信指令システムの現状と将来」

(株)富士通ゼネラル複合システム事業部

システム設計部 部長 中 村 宗 弘氏

○交流パーティー

産学官交流会終了後会場をダイヤモンドパレスに移して、両磐インダストリアルプラザ主催による交流パーティーが行われました。

■ 産学官交流会の開催

両磐インダストリアルプラザ、一関工業高等専門学校、両磐地区広域市町村圏協議会、岩手県南技術研究センター及び岩手県高度技術振興協会が主催する産学官交流会が、平成8年2月2日当研究センターで開催されました。

○講演

- 講演①「平泉・黄金の世紀」

平泉郷土館館長 荒 木 伸 介氏



- 講演②「絶縁性液体の電気伝導と破壊」

一関工業高等専門学校

電気工学科助教授 石 井 新之助氏

- 講演③「夢をカタチにするデザイン研究所モディーとは？」

株式会社モディー中央管理室

太 田 玲 子氏

○交流パーティー

産学官交流会終了後会場をダイヤモンドパレスに移して、両磐インダストリアルプラザ主催による交流パーティーが行われました。

■ 一関高専研究パネル展示会

岩手県南技術研究センター開所記念一関高専研究パネル展示会を開催しました。

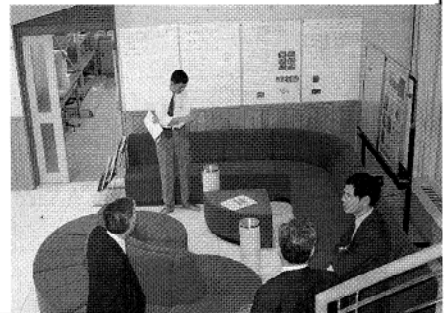
本展示会の開催を通し、両磐地域企業の技術者及び経営者へ技術を波及促進するとともに学の研究成果を広く紹介することによって、産学交流及び地域企業の高度化に資するものであります。

〔展示の概要〕

期 日 平成7年9月26日から10月21日

会 場 当研究センター

研究者 (代表者)	所 属	研 究 テ ー マ
佐々木 世 治	機 械	・ 非定常熱量法による金属の比熱と全半球ふく射率の同時測定法。非定常加熱拡散率の測定法
昆 謙 造	機 械	・ 金属の方位依存性溶解と結晶方位測定
佐 藤 昭 規	機 械	・ ステンレス鋼粗大柱状晶を用いた溶解速度の方位依存性
佐 藤 清 忠	機 械	・ リモートセンシング画像処理に関する研究 ・ 地理情報システムに関する研究
星 朗	機 械	・ 教材用スターリングエンジン
寺 坂 正 二	電 気	・ スパイラル形インダクタ用薄膜磁心の異方性制御 ・ パラレルラインを用いた高周波透磁率測定
中 林 恒	電 気	・ 太陽電池の発生電力量計測システム
石 井 新之助	電 気	・ 絶縁性液体の高電界電気性と電気絶縁性能向上に関する研究
阿 部 林 治	電 気	・ パワースペクトルの変動を考慮した短時間データーのスペクトル解析
馬 場 健 造	制御情報	・ ステップ応答波形の解析による電氣的測定
佐 川 武 俊	制御情報	・ 計算機援用仮想薄板プレス加工システムの開発
清 水 久 記	制御情報	・ 層流形比例増幅素子とその応用
佐 藤 きよ子	物質化学	・ 天然有機化合物の構造分析Salix Integra Thumb(イヌユリヤナギ)樹皮の含有成分について
細 川 静 男	物質化学	・ 微細粒子の形状分離
佐 野 茂	化 学	・ 泡沫による煤煙の除去に関する研究
梁 川 甲 午	化 学	
千 葉 陽 一	化 学	



会 議 関 係

理事会・評議員会・運営委員会

〔理事会〕

■第1回理事会

日 時 平成7年8月9日午前10時～

議案第1号 「評議員の選任について」

評議員には、両磐地域の商工団体、企業及び金融機関等を代表する15名の方が選出されました。

議案第2号 「組織及び運営に関する規則の制定について」

議案第3号 「運営委員会規則の制定について」

議案第4号 「賛助会員規則の制定について」

議案第5号 「平成7年度地域産業支援特別会計補正予算(第1号)」

以上が可決承認されました。

■第2回理事会

日 時 平成7年11月20日(書面表決)

議案第6号 「副理事長の選任について」

欠員となっておりました副理事長に、一関工業高等専門学校池田俊夫校長が選任されました。

■第3回理事会

日 時 平成8年2月9日 午後1時～

議案第1号 「平成7年度地域産業支援事業特別会計補正予算(第3号)」

議案第2号 「平成8年度事業計画について」

議案第3号 「平成8年度一般会計予算」
 議案第4号 「平成8年度地域産業支援事業特別会計
 予算」
 以上が可決承認されました。

〔評議員会〕

■第1回評議員会

日時 平成7年9月26日 午後2時20分～
 理事長から評議員に対し辞令交付の後、財団の組織運
 営等について説明が行われました。
 議案第1号 「理事の選任について」
 欠員となっておりました理事に一関工業高等専門学
 校池田俊夫校長が選任されました。



■第2回評議員会

日時 平成8年2月9日 午前10時30分～
 議案第1号 「平成7年度地域産業支援事業特別会計
 補正予算(第3号)」
 議案第2号 「平成8年度事業計画について」
 議案第3号 「平成8年度一般会計予算」
 議案第4号 「平成8年度地域産業支援事業特別会計予算」
 以上が可決承認されました。
 議案第5号 「理事及び監事の選任について」
 (全員が再任されました。)

〔運営委員会〕

■第1回運営委員会

日時 平成8年1月25日 午後1時30分～
 理事長から運営委員に対し辞令交付の後、財団の組織
 運営等について説明が行われました。
 議案第1号 「平成8年度事業計画」について
 可決承認されました。
 運営委員の構成
 岩手県、一関高専、岩手大学地域共同センター、岩手
 県テクノ財団、両磐地区町村、企業から15名が選出され
 ました。

各種紹介コーナー

研 究 発 表

スパッタリングによる鋼表面への防食皮膜の作成と耐食性評価

発表者 研究部長 昆 謙造教官(新素材部門)

ステンレス鋼などに形成される不働態皮膜は薄くて緻密な酸化皮膜であり、この皮膜によって高い耐食性が与えられている。この不働皮膜のように薄くて緻密で環境遮断性の高い皮膜を人工的に形成できれば、耐食性の低い材料に高い耐食性を与えることができると考えられる。

科学的に安定で、電気絶縁性に優れた酸化物の中で、 Al_2O_3 、 SiO_2 、 Ta_2O_5 、 TiO_2 、 Zr_2O_3 などが人工不働態皮膜材料として考えられる。

新素材応用研究室ではスパッタリング装置(RF-MSP装置)を用いて、スプリンクラー用部品にこれら酸化皮膜を単層または2層に積層して厚さ1 μ m程度に成膜し、その耐食性を電気化学的方法で評価している。すなわち塩酸及び硫酸溶液中で分極曲線を測定し、臨界不働態化電流密度で皮膜欠陥を、不働態化保持電流密度で耐食性を評価している。

現在、圧力、出力、成膜時間等の条件を変えて実験しており、再現性に若干問題があるが、かなりの耐食性の改善がみられる。今後は基盤温度の制御、真空度の改善、多層化を図り、より良い成膜条件をみつけることが課題である。



平成7年度施設の貸出状況 (7月～8年2月既開催分)

催 事 名	主 催 者 名	開 催 日
両磐地区広域企業誘致促進会議	一関市工業課	9月29日
パソコンの会	技術情報部門 (担当佐藤教官)	毎月1回
東北工業教官協会高専部会 (産学交流の日)	東北工学教育協会高専 部会	10月20日
TW I 監督者訓練	一関職業訓練協会	10月16日～ 10月20日
価値工業実践セミナー	〃	11月28日～ 11月29日
パソコン簿記講習会	一関市農林課	12月1日
画像処理応用技術研究会	宮城県工業技術セン ター	1月22日
品質管理(1)入門コース講習会	一関職業訓練協会	1月23日～ 1月24日
レジ操作講習会	岩手生活協同組合	2月23日～ 3月8日

施設見学・視察状況 (平成7年6月～平成8年2月)

月 別	人 数	主 な 団 体 ・ 企 業 等
平成7年 6	27	岩手県総務委員、一関市監査委員
7	12	インテリジェント・コスモス推進協議会
8	22	岩手県、都城市、都城高専
9	24	岩手大学
10	132	岩手県知事、鳥取県会議員、文部省、米子高専
11	68	都城高専、市政見学(一般)
12	9	津山高専
平成8年 1	13	宮城県工業技術センター
2	34	遠野市商工会、東北NEC

県南技研の利用について

○〔施設部門〕

当研究センターでは研究開発室会議室の貸出を行っております。

この施設には、研究発表等に必要のO・H・Pスライド、ビデオデッキ等を設置しております。

使用料は次の表のとおりですが、この料金には、附属する設備の使用料も含まれております。

〈施設使用料〉

区 分		午 前	午 後	夜 間	午 前 午 後	午 後 夜 間	午 前 夜 間
		(3時間) (9時～12時)	(5時間) (12時～17時)	(4時間) (17時～21時)	(8時間) (9時～17時)	(9時間) (12時～21時)	(12時間) (9時～21時)
研究開発室A	賛助会員	500	800	1,000	1,300	1,800	2,300
	そ の 他	1,000	1,600	2,000	2,600	3,600	4,600
研究開発室B	賛助会員	500	800	1,000	1,300	1,800	2,300
	そ の 他	1,000	1,600	2,000	2,600	3,600	4,600
研究開発A 研究開発B	賛助会員	1,000	1,600	2,000	2,600	3,600	4,600
	そ の 他	2,000	3,200	4,000	5,200	7,200	9,200
会 議 室	賛助会員	200	300	400	800	900	1,200
	そ の 他	400	600	800	1,600	1,800	2,400

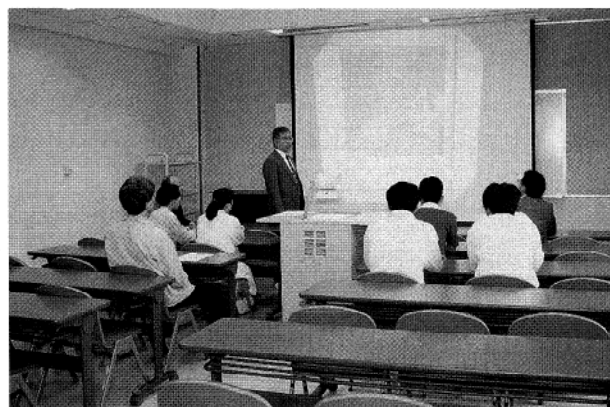
○〔設備部門〕

当研究センターでは新素材応用部門、環境機能応用部門、技術情報部門の設備を企業の方に貸出しております。

ただし、精密機械については、一定のトレーニングを受ける必要があります。(平成8年度事業計画にこれら設備の取扱いの技術指導を予定しておりますので

受講されるよう希望いたします。)

これら施設・設備の使用につきましては、事前に電話で希望する日程を事務局へお問い合わせください。



平成8年度事業計画 (個別)

平成8年度の事業につきましては、去る1月25日の運営委員会で取りまとめ、2月9日開催の評議員会並びに理事会でご審議をいただきました。

事業区分及び内容	実施時期	予定人員
1 研究開発事業		
(1) 共同・受託研究開発事業		
1) 新素材応用研究部門 6件		
2) 環境機能応用研究部門 6件		
3) 技術情報教育部門 2件		
(2) 自主研究開発事業		
1) 新素材応用研究部門 8件		
2) 環境機能応用部門 8件		
3) 技術情報教育部門 3件		
2 人材育成事業		
(1) 技術相談・指導		
1) 新素材応用研究部門		
2) 環境応用研究部門		
(2) 公開講座		
1) 情報教育部門 1講座	8月～9月	20人
(3) 技術講習会		
1) 新素材応用研究部門 1回 研究開発・機器操作の指導	〃	10人
2) 環境機能応用研究部門 1回 研究開発・機器操作の指導	〃	10人
3 地域関連事業		
(1) 産学官交流会・技術懇談会 3回	9月～2月	
(2) 試験・分析受入	常時受付	
(3) 施設・設備貸付	〃	
4 情報提供事業		
(1) 広報誌の発行 2回		

賛助会員ご加入の紹介

平成8年2月16日現在

会 員 名	
北 上 製 紙 (株)	西 浦 精 機 (株) 岩 手 工 場
コ ス モ 工 業 (株)	(株) 岩 手 東 京 ワ イ ヤ ー
ト ス テ ム 一 関 (株)	日 本 端 子 (株) 花 泉 工 場
(株) 一 関 プ リ ン ト 社	(株) 総 合 土 木 コ ン サ ル タ ン ツ
(株) 金 沢 電 気 工 業 所	オ リ エ ン ト サ ウ ン ド (株)
川 嶋 印 刷 (株)	(株) 大 昌 電 子 岩 手 工 場
(株) コ パ ル ー 関 工 場	(株) 平 野 組
(株) ケ ー エ ム エ フ	千 住 ス プ リ ン ク ラ ー (株)
日 本 ウ ェ ー プ ロ ッ ク (株)	(株) 倉 元 製 作 所
(株) 佐 々 木 組	細 倉 精 錬 (株)
(株) ア ロ ン 社	東 北 電 力 (株)
佐 原 プ レ ス 工 業 (株)	ア イ ワ 岩 手 (株)
東 北 日 本 電 気 (株)	東 北 銀 行 一 関 支 店
協 立 ハ イ バ ー ツ (株)	日 鉱 マ グ ネ テ イ ク ス (株)
大 黒 電 線 (株) 千 厩 工 場	(株) 明 輝
三 菱 マ テ リ ア ル (株)	(株) 岩 手 電 子 計 算 セ ン タ ー
大 井 電 機 (株) 水 沢 製 作 所	野 村 産 業 (株) 岩 手 工 場
(有) 松 川 木 ヒ ー ル	岩 手 銀 行 一 関 支 店
松 川 原 田 工 業 (株)	エ ン バ ッ ク ス 気 象 計 (株)
三 光 化 成 (株)	上 尾 精 密 (株)
一 関 信 用 金 庫	北 日 本 銀 行 一 関 支 店

○賛助会会員加入のお願い

当センター設立の趣旨に賛同する企業の皆様に「賛助会員」の加入について、広く募っております。皆様のご理解をいただき、ご加入されますようお願い申し上げます。

〈賛助会費 1口40,000円／年度〉

○特 典

- ・施設・設備の利用料金を半額免除となります。
- ・試験・分析の料金を半額免除となります。
- ・公開講座・技術セミナーへ優先的に参加できます。
- ・技術情報、会報の配布など各種のサービスが受けられます。

技術開発等の支援、技術者等の養成制度の紹介

新製品、新技術等の技術開発を行いたい

○産学官共同研究促進事業

技術革新や研究開発の高度化に対応するため、中小企業が大学などと共同で技術開発を行う場合、その経費の一部を助成し、企業の研究開発力、新製品創造力の強化を支援します。

【対象事業】

大学、短期大学、工業高等専門学校[※]の共同研究制度を活用し、これらの機関と共同で実施する研究開発事業

【助成内容】

補助率	対象経費の2分の1以内
補助額	1年度当たり500万円以内
事業期間	同一テーマについて原則1年。ただし1年間は継続可能

この二つの制度の受入機関に、一関工業高等専門学校が該当しておりますので、企業の皆様の積極的な活用をお勧めします。

最新の専門的技術や知識を習得したい

○先端技術開発推進人材育成事業

中小企業者が最新の専門的技術や知識の習得を目的として大学や試験研究機関等に技術者を長期間派遣する場合、賃金や受講料その他の経費の一部を助成し、中小企業の技術開発力の強化を支援します。

【対象事業】

- 1 派遣期間等 原則として概ね一年以上の期間、1か月に20日以上派遣先で勤務又は出席
- 2 派遣先 高度な技術、知識の習得が可能な国公立の試験研究機関、大学、高等専門学校若しくは企業の研究施設（工場の研究開発担当部門を含む。）又はこれらと同等と認められる機関

【助成内容】

補助率	対象経費の2分の1以内
補助額	1名当たり100万円以内

事業の計画がありましたら、一関工業高等専門学校庶務課長（電話 24-2121）又は当センター（電話 24-4688）へご相談ください。

○編集後記○

創刊につきましては、当センターが昨年6月にスタートしたばかりということで、資料の収集不足などから、十二分な内容とならなかった感もありますが、今後は、研究成果、技術情報、催事の紹介を充実し掲載して参りたいと考えております。



当センターへの略図

